

酒皰に起因するほてりに対する 白虎加人参湯の使用経験

ほう皮フ科クリニック (岡山県) 許 郁江

酒皰の治療は、0.75%メトロナゾールゲルが保険適用となったものの、まだ治療選択肢は少ないのが現状である。酒皰に伴う持続的な紅斑は患者QOLの低下につながることから、患者個々に合わせた治療・生活指導やスキンケアが必要である。筆者は以前から酒皰に対し漢方薬を併用する治療を行っており、良好な成績が得られている。

本稿では顔面のほてりを訴える患者に対して白虎加人参湯を使用したところ、治療開始早期から症状に改善がみられ、有用性を確認できた2症例を経験したので報告した。

Keywords 酒皰、ほてり、白虎加人参湯

はじめに

酒皰は中高年の顔面に生じる原因不明の慢性炎症性疾患であり、潮紅、持続性紅斑、丘疹、膿疱、毛細血管拡張などの症状を特徴とする¹⁾。2022年に0.75%メトロナゾールゲル(以下、メトロナゾール)が保険適用となるまでは、メトロナゾール軟膏の保険外処方、一般的なスキンケアを主体に症状を管理するしかなかった。

当院では以前より酒皰に対して生活指導、スキンケアだけではなく、漢方薬を併用した治療を行ってきた。

今回、酒皰に起因する顔面のほてりを訴える患者に対して白虎加人参湯を使用し有効であった症例を報告する。

症例1 54歳女性、第2度酒皰(罹病期間10ヵ月)

【主 訴】 顔のほてり、紅斑、肩こり

【現病歴】 10ヵ月前、スプレー式の洗浄剤を家事で使用後より、顔面にほてり感、紅斑が出現したとのことで他院を受診し、酒皰と診断された。1ヵ月間、十味敗毒湯を内服するも症状が改善せず、当院を受診した。

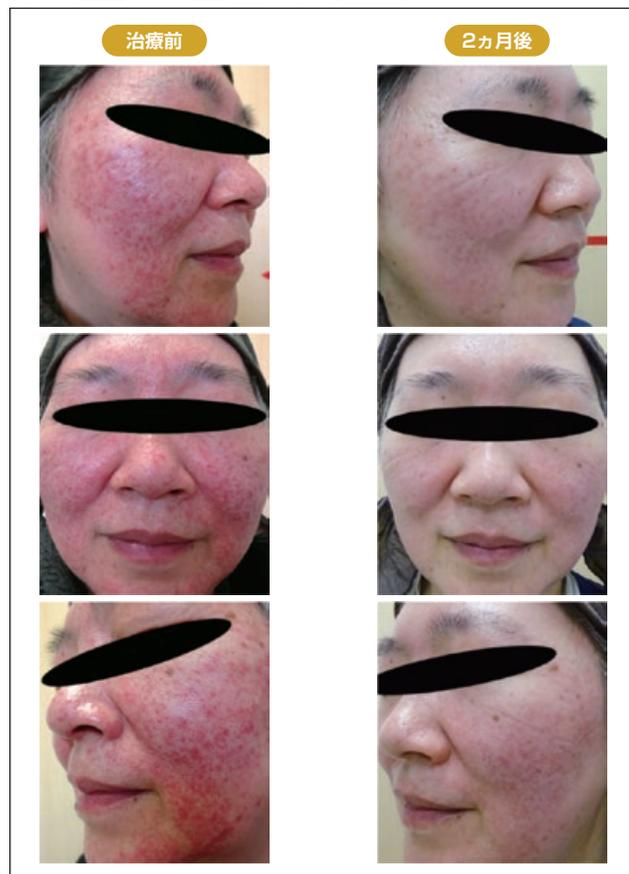
【既往歴】 アレルギー性鼻炎

【処 方】 クラシエ白虎加人参湯エキス細粒6.0g/日(分2)、紅色丘疹・膿疱を認め最初の2週間はミノサイクリン100mgを併用した。

【経 過】 日光・熱めの入浴・冷暖房・辛い食事・アルコール摂取で悪化した経緯があり、日常生活においてそれらの刺激を避けるよう指導し、低刺激保湿化粧品の使用を

お勧めした。白虎加人参湯服用前の顔のほてり(VAS)は5.5であったが、2週後4.8、1ヵ月後1.1、2ヵ月後0.1と経時的な改善が確認された。なお、肩こりの訴えが強く、2週間後よりクラシエ柴胡桂枝湯エキス細粒6.0g/日(分2)を追加した。また、顔面の紅斑・紅色丘疹はともに服用前

図1 症例1(54歳女性、第2度酒皰)



は中等度であったが、2ヵ月後には改善が確認された(図1)。その後再発は認めていない。

症例2 77歳女性、第2度酒皰(罹病期間1年)

【主 訴】 顔のほてり、紅斑

【合併症】 高血圧症、2型糖尿病

【現病歴】 家庭内の問題が長く続いており、ストレスを受けるようになった。1年前ごろより、顔面にほてりを感じるようになり、当院を受診した。

【処 方】 クラシエ白虎加人参湯エキス細粒6.0g/日(分2)、0.75%メトロナゾールゲル。

【経 過】 日光・熱めの入浴・暖房・ストレスにて悪化した経緯があり、日常生活においてそれらの刺激を避けるよう指導し、低刺激保湿化粧品の使用をお勧めした。白虎加人参湯服用前の顔のほてり(VAS)は9.3であったが、2週後6.6、2ヵ月後3.3、3ヵ月後1.4と経時的な改善が確認された。また、顔面の紅斑・紅色丘疹はともに服用前は

図2 症例2(77歳女性、第2度酒皰)



中等度であったが、2ヵ月後には改善が確認された(図2)。その後再発は認めていない。

今回報告した2症例において、薬剤に起因すると考えられる副作用は認めなかった。

考 察

酒皰は遺伝的素因、外部悪化因子、異常免疫反応、ダニ等多くのマカニズムが複雑に関与していることから、病態については明らかになっていない。臨床症状にしたがって、紅斑・毛細血管拡張・ほてり感を主体とする紅斑毛細血管拡張型酒皰(第1度酒皰)、面皰は伴わず、痤瘡に類似する丘疹・膿疱を主体とする丘疹膿疱型酒皰(第2度酒皰)、鼻部を中心とした腫瘤を形成する瘤腫型酒皰・鼻瘤(第3度酒皰)、眼瞼・眼球結膜の充血や炎症を伴う眼型酒皰に分類され、単独もしくは混在する。『尋常性痤瘡・酒皰治療ガイドライン2023¹⁾』では、海外と同様に症候に合わせた治療が提案されたが、推奨度A(行うよう強く推奨する)は丘疹膿疱型酒皰に対してのメトロナゾールのみである。酒皰に伴う持続的な紅斑は、生活の質(QOL)に悪影響を及ぼすと報告されている²⁾が、日本においては海外に比べ、治療薬剤の選択肢が少ないのが現状である。また、紫外線、室温の変化、精神的ストレス、食べ物(香辛料入りの食事)、アルコール摂取など³⁾日常生活の中に多くの酒皰の悪化因子があるため、薬物治療の他にも悪化因子を避けるために患者さん個々に合わせた生活指導も大切であると考えられる。

酒皰に対する漢方治療は標治として清熱剤(十味敗毒湯、黄連解毒湯、白虎加人参湯)、本治として駆瘀血剤(当帰芍薬散、加味逍遙散、桂枝茯苓丸など)が有用とされている⁴⁾。白虎加人参湯は人参、知母、石膏、粳米、甘草の5つの生薬で構成された漢方薬である。人参・知母には熱を冷ます作用があり、人参・知母・石膏・粳米・甘草には乾燥を潤す作用があるといわれており、口渇、熱感、多汗がある人に用いられる⁵⁾。熱を冷ます作用があることからアトピー性皮膚炎⁶⁻⁹⁾、酒皰・酒皰様皮膚炎¹⁰⁾などの皮膚疾患での報告がある。

今回、ほてりを訴える酒皰の患者に白虎加人参湯を使用しVASで経過を観察したところ、ほてりの改善だけでなく、

2ヵ月後には紅斑・紅色丘疹の改善も認められた。症例1はミノサイクリン、症例2はメトロニダゾールを併用していたため、紅色丘疹の改善はそれらによる効果である可能性が高いが、ほてり・紅斑の改善は白虎加人参湯によるものだと考えられる。白虎加人参湯は清熱作用¹¹⁾、抗アレルギー作用¹²⁾、皮膚組織のAQP3発現増加作用¹³⁾の報告があり、清熱しながら保湿を行うことにより症状の改善をもたらしたと示唆された。メトロニダゾールは紅色丘疹には比較的早く効果を示すが、紅斑に対しては3ヵ月頃より改善が認められる印象がある。メトロニダゾールと白虎加人参湯を併用することにより、早期から症状の改善に有用であると考えられる。

今回は2症例の報告のため、有用性については今後の集積報告が期待される。

【参考文献】

- 1) 尋常性痤瘡・酒皰ガイドライン作成委員会: 尋常性痤瘡・酒皰ガイドライン2023. 日皮会誌 133: 407-450, 2023
- 2) Baldwin HE, et al.: Erythema of rosacea affects health-related quality of life: results of a survey conducted in collaboration with the National Rosacea Society. *Dermatol Ther* 9: 725-734, 2019
- 3) Holmes AD, et al.: Evidence-based update on rosacea comorbidities and their common physiologic pathway. *J Am Acad Dermatol* 78: 156-166, 2018
- 4) 山田秀和: 酒皰に対する漢方治療－漢方治療を考える－. *MB Derma* 295: 9-14, 2020
- 5) 安井廣迪: 臨床応用漢方処方ガイド. pp38-39, 2015
- 6) 杉田康志: ほてり感に対する白虎加人参湯の使用経験. *新薬と臨牀* 51: 120-123, 2002
- 7) 夏秋 優: 白虎加人参湯のアトピー性皮膚炎患者に対する臨床効果の検討. *日東医誌* 59: 483-489, 2008
- 8) 夏秋 優: アトピー性皮膚炎に対する白虎加人参湯の効果. *皮膚の科学* 9: 54-58, 2010
- 9) リンド知子: ほてりに対する白虎加人参湯エキス錠の臨床効果に対する検討. *phil漢方* 64: 20-21, 2017
- 10) 橋本喜夫: 酒皰及び酒皰様皮膚炎に対する漢方薬の有効性－特に白虎加人参湯の有効性－. *漢方医学* 34: 351-356, 2010
- 11) Tohda C, et al.: Inhibitory effect of Byakko-ka-ninjin-to on itch in a mouse model of atopic dermatitis. *Phytother Res* 14: 192-194, 2000
- 12) Tatsumi T, et al.: A Kampo formulation: Byakko-ka-ninjin-to (Bai-Hu-Jia-Ren-Sheng-Tang) inhibits IgE-mediated triphasic skin reaction in mice: the role of its constituents in expression of the efficacy. *Biol Pharm Bull* 24: 284-290, 2001
- 13) Aburada T, et al.: Byakkokaninjinto prevents body water loss by increasing the expression of kidney aquaporin-2 and skin aquaporin-3 in KKAY mice. *Phytother Res* 25: 897-903, 2011